

2023国際教養科 NEWS 12月

11/5 筑波大学 国際総合学類長 柏木健一先生訪問

11月5日 雙峰祭（筑波大学学園祭）の中、訪問致しました。国際教養科主任 宮沢 久
同行をお願いした令和4年度卒業生の宮川知南さんは同学類の1年に在籍します。他には1年に1名、
3年に1名の計3名の本校卒業生が同学類で学問研究にあたっています。

筑波大学は、他の大学で見られる学部・学科・専攻という名称を用いず、学群、そしてその構成組織として学類を置いています。同学類は国際関係学と国際開発学の2つの主専攻を有します。その中で、文系理系の枠を飛び越えて、その融合の中で、世界各地に起こる諸問題の解決に資するための学問的研究を行っています。今回お会いした学類長の柏木先生は、筑波大学地中海・北アフリカ研究センター（ARENA）、お務めになっております。取り扱うフィールドとしては、現在大きな問題となっているパレスチナやイスラエル、北アフリカのモロッコなどの農業、それに付随する社会・経済体制、それらのバックボーンとなるイスラム文化がそれにあたります。

先生は、パレスチナのヨルダン川西岸地区（West Bank）におけるオリーブの有機栽培に着目し、従前の農法からの脱却を図ることによって、地域の発展がどのように展開されるかを開発経済学の視点から、解明しようとする論文が、7月にリリースされました。事前に私も、英語論文の半分程度を読んで、先生にお会いすることができました。その矢先、今回のハマスのイスラエル無差別攻撃から端を発する戦闘状態と、ガザ地区の人道危機が発生し、農業の安定から生まれる平和な世界とは真逆の方向へ向かっているベクトルに、私自身大きな憤りを感じざるを得ないと先生にお伝えしました。中東情勢について思うことを交換することができたことも良い機会でした。

学類が創設されて半世紀が経過して、卒業生が一同に会するリユニオンがあり、国会議員や現在のつくば市長が卒業生の一角として、政治の世界でも活躍をしているとお聞きしました。彼らは大変エネルギーで、今後の国際学類の発展のために尽力を惜しまないと語っていたということです。

先生はこれからも多くの高校生が、国際総合学類の門を叩いて、国際貢献、国際理解のために尽力する若い人たちを多く集めたいとおっしゃっておいりました。本校においでいただき、講演や出前授業なども行っていただけるということで、今後とも筑波大国際総合学類との結びつきを大切にしたいと思います。



2年国際教養科 福田悠夏さん第41回全日本中国語スピーチコンテスト長野県大会で優勝



10月21日（土）長野市において開催された同大会で、2年国際教養科の福田さんが高校生部門で優勝を勝ち取りました。数カ月、本校の中国の先生方の指導を受けながら、日々のトレーニングを重ねてきた結果の栄冠でした。今後、大会当日の録音が現在審査され、全国大会に選出される機会も残されています。福田さんの今後の活躍に期待が集まっています。